

インドネシア人看護師候補者受入実態調査 及び インドネシア人介護福祉士候補者受入実態調査の対比について

(平成22年3月24日 社会・援護局福祉基盤課 公表済)

インドネシア人看護師候補者受入実態調査及びインドネシア人介護福祉士候補者実態調査については、調査対象、調査票等が異なっており、単純な比較をすることはできないが、参考として、類似の質問項目について、両調査を対比して掲載することとした。

両調査の類似質問項目についての主なポイントは以下のとおり。

(受入の目的)

○看護師候補者については、「将来の外国人受入れのテストケースとして」が約85%。「国際貢献・国際交流のため」、「職場の活性化のため」と回答した割合が約7割。一方で、「看護補助者の人員不足の解消のため」という回答も約6割。

○介護福祉士候補者については、「国際貢献・国際交流のため」「将来の外国人受入れのテストケースとして」「職場の活性化のため」と回答した割合が8割～9割。一方で、「人手不足の解消のため」という回答も5割弱存在。

(候補者の就労・研修状況)

○看護師候補者については、「日本人職員が平易な言葉でゆっくり話をすれば、何とか実施できる」が約6割。一方で「日本人職員が平易な言葉でゆっくり話をしても、業務に一部支障がある」「ほとんどできない」という回答が約15%。

○介護福祉士候補者については、「日本人職員が平易な言葉でゆっくり話をすれば、何とか実施」が5割～6割。一方で、「平易な言葉でゆっくり話をしても、一部支障あり(あるいは、ほとんどできない)」と回答した者も2割～4割存在。

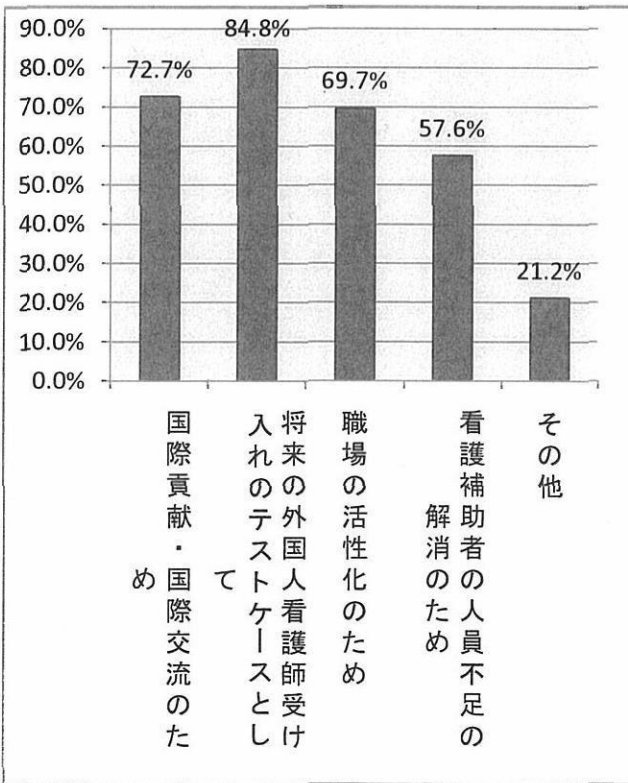
(候補者のコミュニケーション能力)

○看護師候補者の場合、職員からみると、「時々話が通じないときはあるが、ゆっくり話せば概ね伝わる」が約6割。また、患者からみると、「特に問題なく意志疎通ができる」「時々話が通じないときはあるが、ゆっくり話せば概ね伝わる」がそれぞれ4割。一方で、コミュニケーションがうまくとれず問題が生じた事例があると回答した割合が、職員との間で約3割。患者やその家族との間で約2割。(問題事例: 指示を理解できずに頼んだ仕事をしていない等)

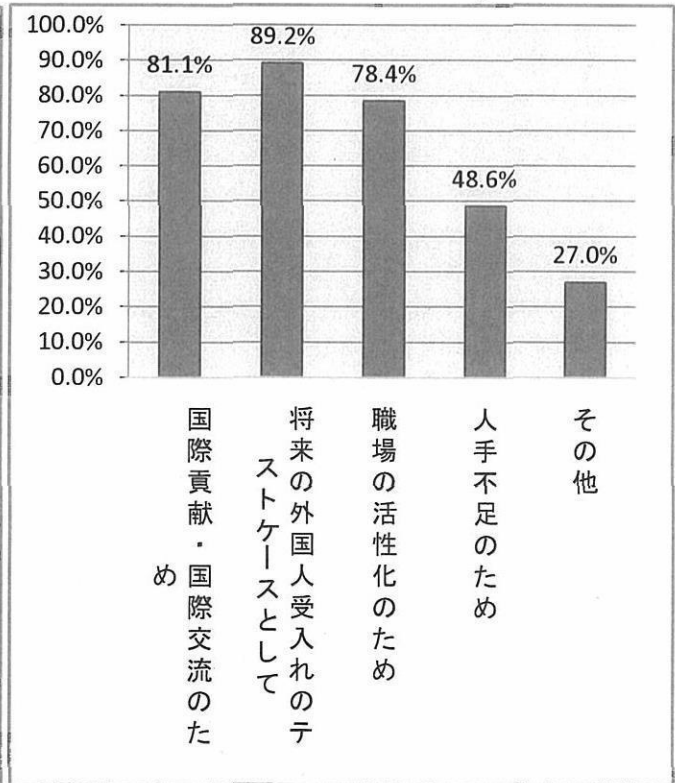
○介護福祉士候補者の場合、施設職員及び利用者からみると、日本語のコミュニケーションについて「時々通じないが、ゆっくり話せば概ね伝わる」が6割～7割。一方で、「コミュニケーション不足により問題事例が発生した」と回答した割合も3割～5割存在。(問題事例: 服薬もれ等)

項目	各実態調査の公表資料の「結果概要」の該当箇所	内容
1 受入の目的	看護 1-(1) 理事長・病院長への質問	○候補者の受入目的は、「将来の外国人受入れのテストケースとして」(84.8%)、「国際貢献・国際交流のため」(72.7%)、「職場の活性化のため」(69.7%)、「看護補助者の人員不足の解消のため」(57.6%)となっている。(複数回答可)
	介護 1 施設長・理事長への質問	●候補者の受入目的は、「将来の外国人受入れのテストケースとして」(89.2%)、「国際貢献・国際交流のため」(81.1%)、「職場の活性化のため」(78.4%)、「人手不足解消のため」(48.6%)となっている。(複数回答可)

看護師候補者

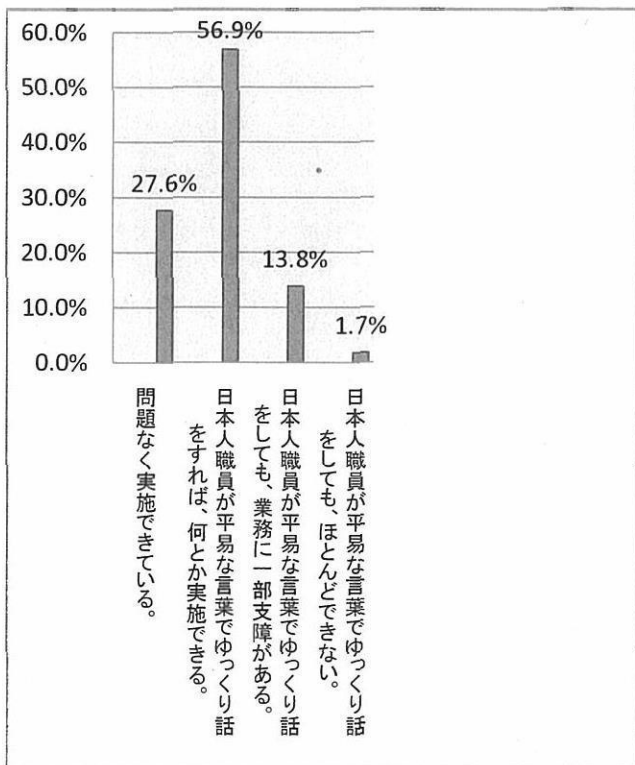


介護福祉士候補者

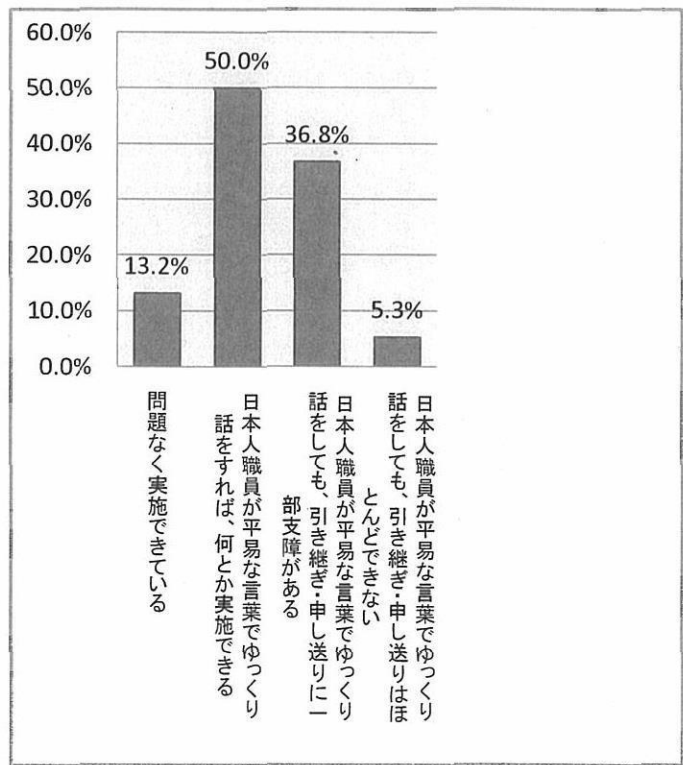


項目	各実態調査の公表資料の「結果概要」の該当箇所	内容
2	業務上の指示に関する候補者の理解等 看護	2-(3)-① 研修責任者への質問 ○候補者の業務上の指示(口頭)の理解度を見ると、「日本人職員が平易な言葉でゆっくり話をすれば、何とか実施できる」(56.9%)、「問題なく実施できている」(27.6%)、「日本人職員が平易な言葉でゆっくり話をしても、業務に一部支障がある」(13.8%)、「日本人職員が平易な言葉でゆっくり話をしても、ほとんどできない」(1.7%)となっている。
	介護	2-(3) 研修責任者への質問 ●引き継ぎ・申し送りの実施状況を見ると、「日本人職員が平易な言葉でゆっくり話をすれば、何とか実施できる」(50.0%)、「日本人職員が平易な言葉でゆっくり話をしても、引き継ぎ・申し送りに一部支障がある」(36.8%)、「問題なく実施できている」(13.2%)、「日本人職員が平易な言葉でゆっくり話をしても、引き継ぎ・申し送りはほとんどできない」(5.3%)となっている。

看護師候補者

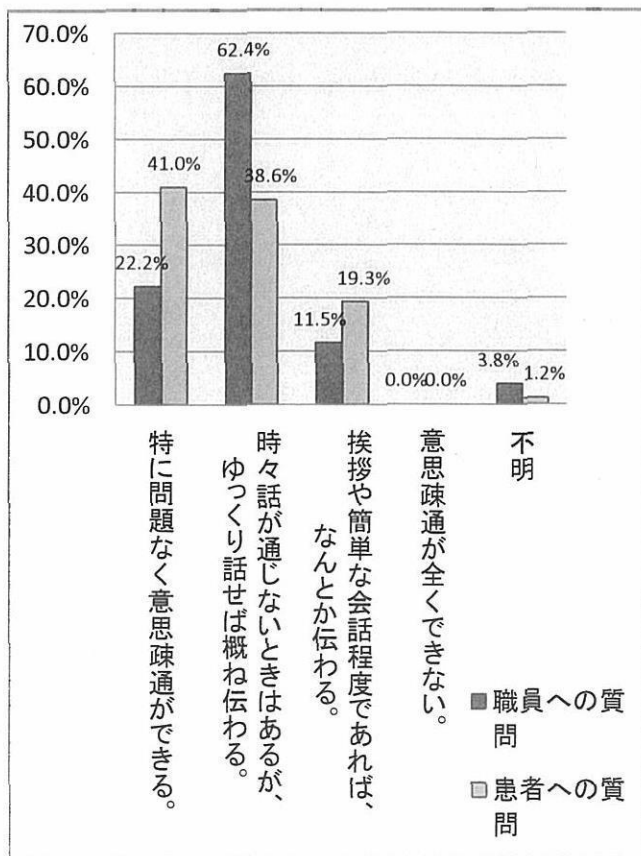


介護福祉士候補者

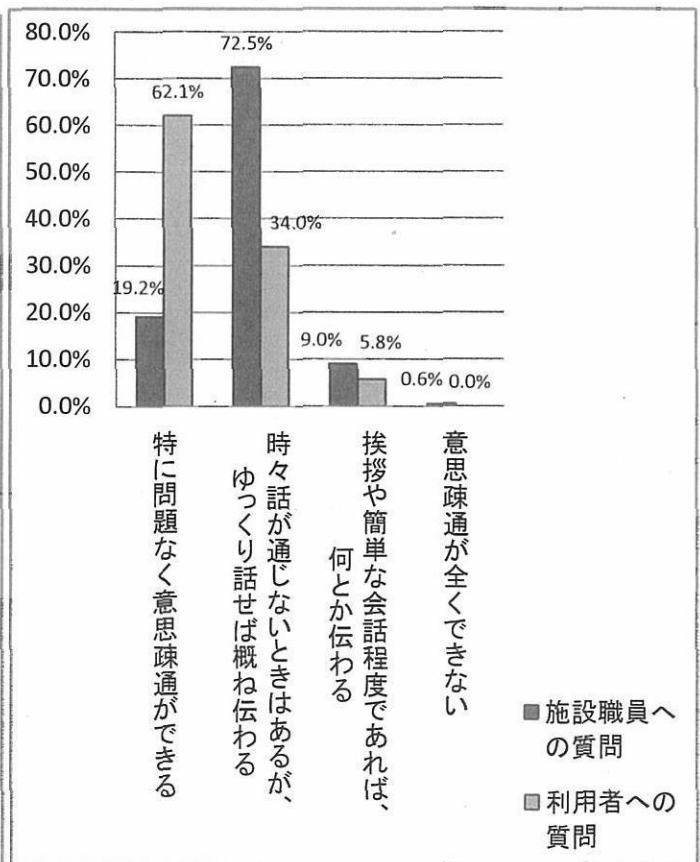


項目	各実態調査の公表資料の「結果概要」の該当箇所	内容
3 ① 候補者とのコミュニケーション (職員等への質問)	看護 3-(2)-① 職員への質問	○職員に対して、候補者と職員との日本語による意思疎通状況について尋ねたところ、「時々話が通じないときはあるが、ゆっくり話せば概ね伝わる」(62.4%)、「特に問題なく意思疎通ができる」(22.2%)、「挨拶や簡単な会話程度であれば、なんとか伝わる」(11.5%)となっている。
	3-(2)-② 患者への質問	○患者に対して、候補者とのコミュニケーションが取れているか尋ねたところ、「特に問題なく意思疎通ができる」(41.0%)、「時々話が通じないときはあるが、ゆっくり話せば概ね伝わる」(38.6%)、「挨拶や簡単な会話程度であれば、なんとか伝わる」(19.3%)となっている。
	介護 3-(1) 施設職員への質問	●施設職員に対して、候補者との日本語による意志疎通について尋ねたところ、「時々話が通じない時はあるが、ゆっくり話せば概ね伝わる」(72.5%)、「特に問題なく意思疎通ができる」(19.2%)。「挨拶や簡単な会話程度であれば、なんとか伝わる」(9.0%)、「意思疎通が全くできない」(0.6%)となっている。
	3-(1) 利用者への質問	●利用者に対して、候補者との日本語による意志疎通について尋ねたところ、「特に問題なく意思疎通ができる」(62.1%)、「時々話が通じない時はあるが、ゆっくり話せば概ね伝わる」(34.0%)。「挨拶や簡単な会話程度であれば、なんとか伝わる」(5.8%)となっている。

看護師候補者

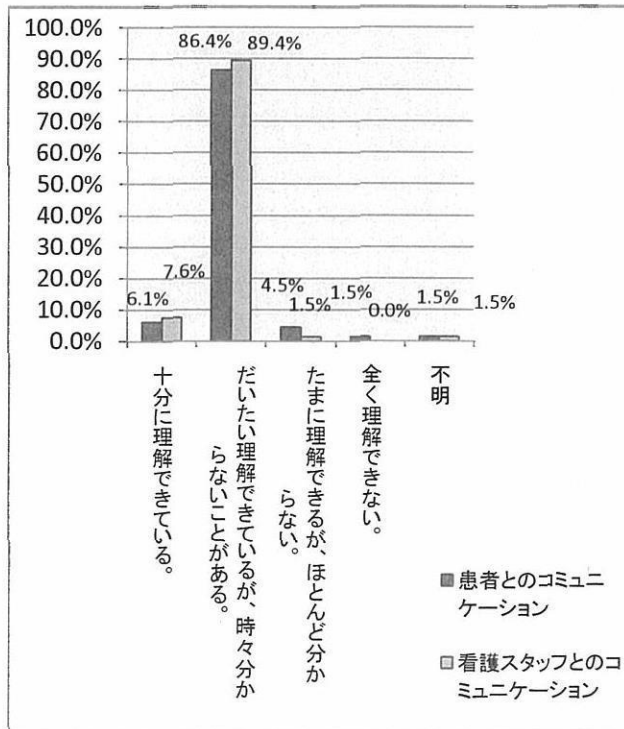


介護福祉士候補者

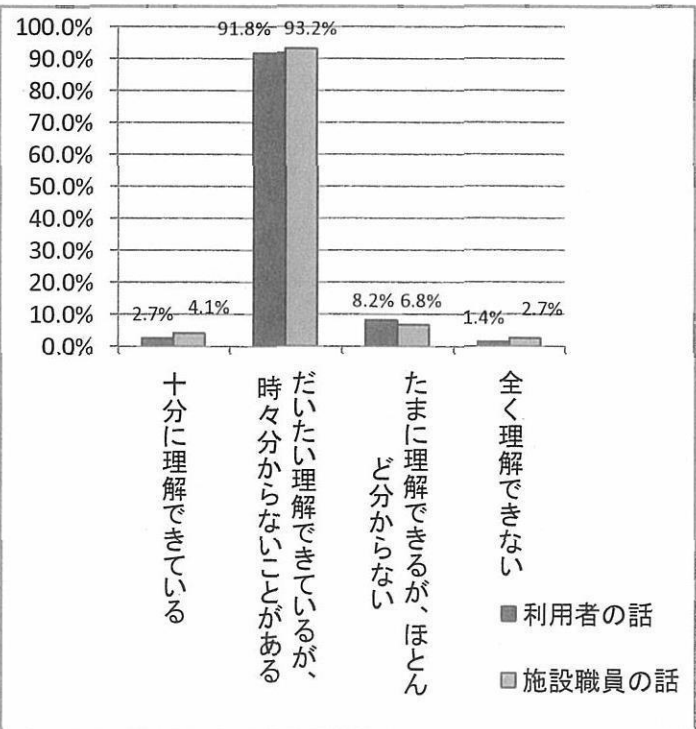


項目	各実態調査の公表資料の「結果概要」の該当箇所	内容
3 ② 候補者とのコミュニケーション (候補者への質問)	看護 3-(2)-③ 候補者への質問	○候補者に対して、患者とのコミュニケーションについて尋ねたところ「だいたい理解できているが、時々分からないことがある」(86.4%)「十分に理解できている」(6.1%)、「ほとんど理解できない」(4.5%)、「全く理解できない」(1.5%)となっている。 また、看護スタッフとのコミュニケーションについては、「だいたい理解できているが、時々分からないことがある」(89.4%)「十分に理解できている」(7.6%)、「ほとんど分からない」(1.5%)となっている。
	介護 3-(1) 候補者への質問	●候補者に対して、利用者との日本語による意思疎通について尋ねたところ、「だいたい理解できているが、時々分からないことがある」(91.8%)、「たまに理解できるが、ほとんど分からない」(8.2%)、「十分に理解できている」(2.7%)、「全く理解できない」(1.4%)となっている。 また、日本人の介護職員との日本語による意思疎通について尋ねたところ、「だいたい理解できているが、時々分からないことがある」(93.2%)、「たまに理解できるが、ほとんど分からない」(6.8%)、「十分に理解できている」(4.1%)、「全く理解できない」(2.7%)となっている。

看護師候補者

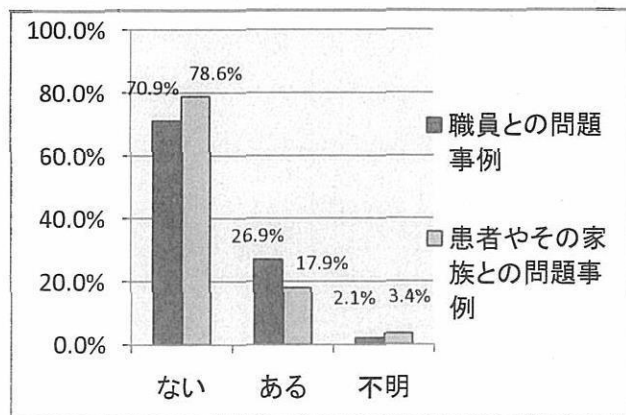


介護福祉士候補者

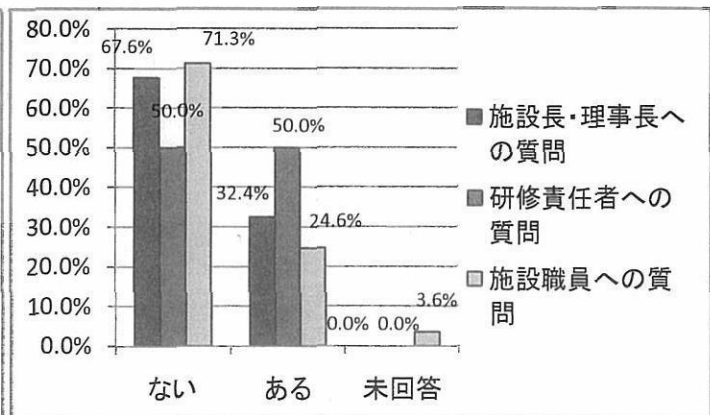


項目	各実態調査の公表資料の「結果概要」の該当箇所	内容
4 候補者のコミュニケーション不足による問題発生状況	3-(3) 職員への質問	○職員に対して、候補者とのコミュニケーションがうまくとれず問題が生じた事例の有無に関して尋ねたところ、職員との問題事例及び患者やその家族との問題事例について各々、「ある」が26.9%、17.9%、「ない」が70.9%、78.6%となっている。
	看護 (具体的な事例)	○職員との問題事例は、 ・一人勤務時、看護師のリーダーの指示を理解出来ないことがある。 ・入浴の患者様のお迎えを指示したが、お迎えに行かず入浴できなかった。「わかりました」というが実際は理解できていない。 ・何でも「はい」と答えるが、頼んだ仕事をしていないことがあった。実は理解していなかった様子。 ・性急な場面での会話による意思疎通はほぼ困難(単語のみならOK)。 ○患者やその家族との問題事例は、 ・患者さんの中には昔の言い回しや、地方の言葉でしゃべられるので、本人が困っているようです。 ・患者・御家族に早口で言われると理解が難しく、看護師が再度聞きに行くことがある。 ・話しかけても返事がない、ケアが雑などの苦情があった。 ・事前に説明したことが理解されておらず、患者さんを前にしてもう一度一つずつ説明しなければならず、患者さんを待たせた。
	3-(2) 施設長・理事長への質問 研修責任者への質問 施設職員への質問	●施設長・理事長、研修責任者、施設職員に対して、候補者とのコミュニケーションがうまくとれず問題が生じた事例の有無に関して尋ねたところ、「ある」が各々、32.4%、50.0%、24.6%、「ない」が各々、67.6%、50.0%、71.3%となっている。
	介護 (具体的な事例)	・ 職員の指示を理解していなくても「分かりました」と答える。 ・ 日本語の理解が十分でないため、業務内容が伝わらず業務に支障が生じる、時間を守れないといったことがある。 ・ 利用者のお話の内容で理解できなかった事は、そのままにしてしまう。 ・ 申し送りの内容が理解できない。 ・ 服薬もれがあった。 ・ 軽い事故(注:内容について詳細な記載なし)があった。

看護師候補者



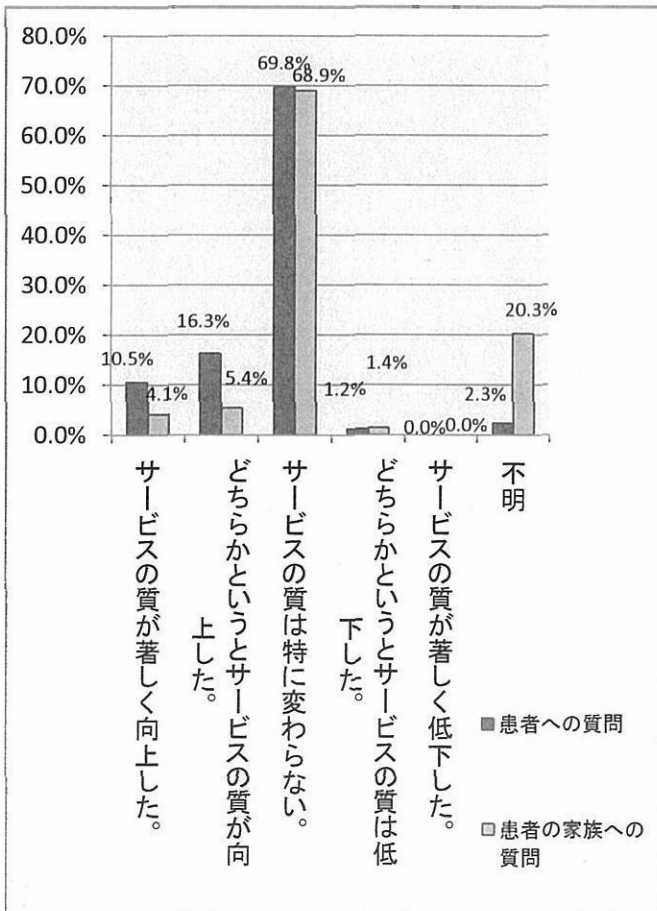
介護福祉士候補者



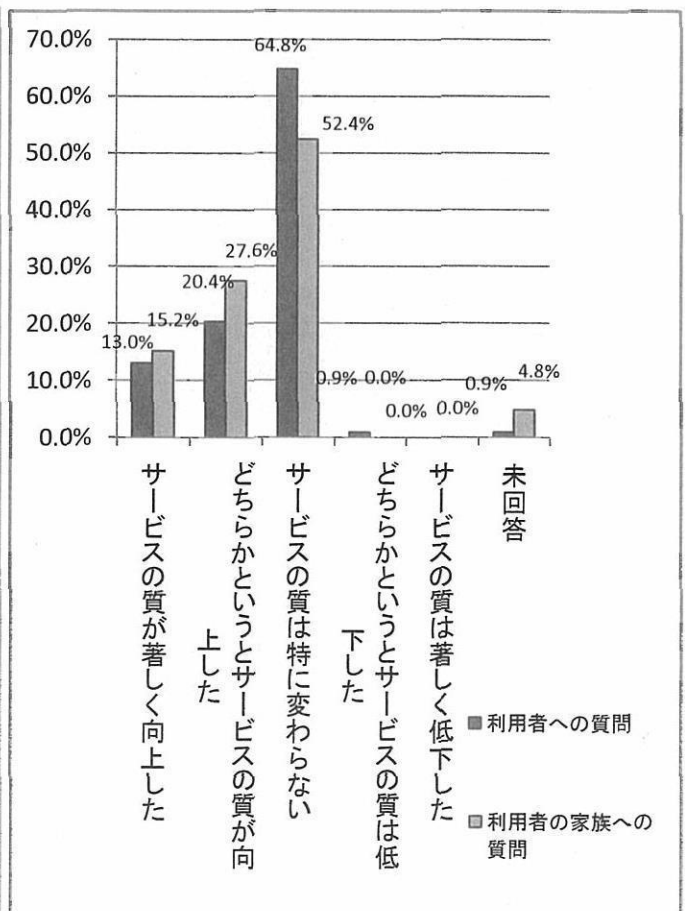
※インドネシア人看護師候補者は、看護業務ではなく、看護補助業務に従事していることに留意。

項目	各実態調査の公表資料の「結果概要」の該当箇所	内容
5 サービスの質への影響	看護 4-(3)-① 患者への質問	○患者に対して、候補者が働いていることによる医療サービスの質の変化を尋ねたところ「サービスの質は特に変わらない」(69.8%)、「どちらかというサービスの質が向上した」(16.3%)、「サービスの質が著しく向上した」(10.5%)などとなっている。
	4-(3)-② 患者の家族への質問	○患者の家族に対して、候補者が働いていることによる医療サービスの質の変化を尋ねたところ、「サービスの質は特に変わらない」(68.9%)、「どちらかというサービスの質が向上した」(5.4%)、「サービスの質が著しく向上した」(4.1%)などとなっている。
	介護 4-(1)-① 利用者への質問	●利用者に対して、施設が提供する介護サービスの質への影響について尋ねたところ、「サービスの質は特に変わらない」(64.8%)、「どちらかというサービスの質が向上した」(20.4%)、「サービスの質が著しく向上した」(13.0%)などとなっている。
	4-(1)-① 利用者の家族への質問	●利用者の家族に対して、施設が提供する介護サービスの質への影響について尋ねたところ、「サービスの質は特に変わらない」(52.4%)、「どちらかというサービスの質が向上した」(27.6%)、「サービスの質が著しく向上した」(15.2%)となっている。

看護師候補者

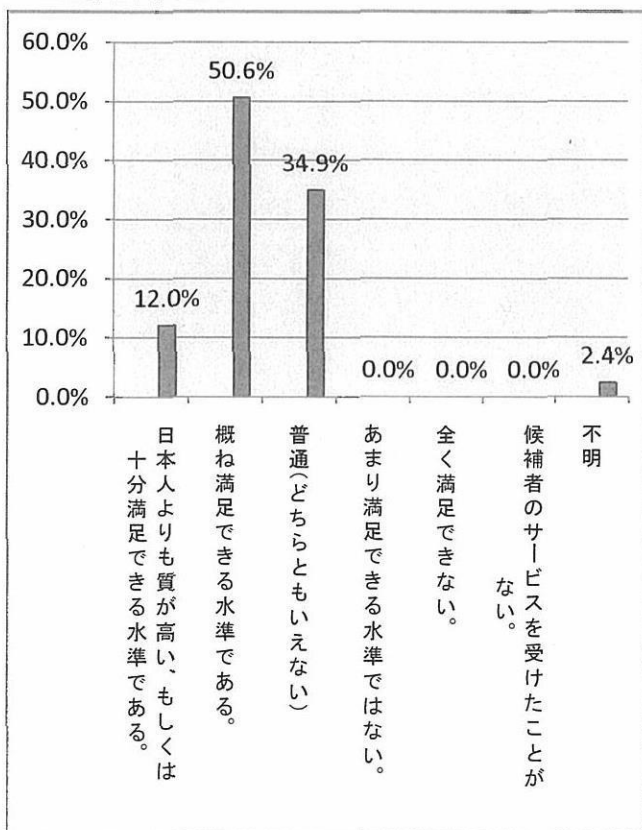


介護福祉士候補者

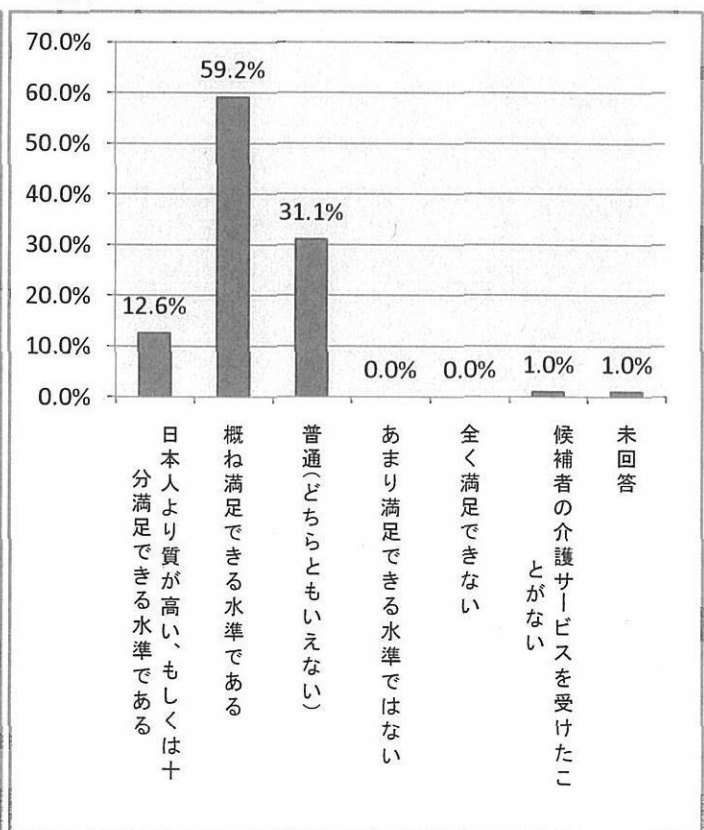


項目	各実態調査の公表資料の「結果概要」の該当箇所	内容
6 候補者によるサービスの質の水準	看護 4-(4) 患者への質問	○患者に対して、候補者によるサービスの質の水準を尋ねたところ、「概ね満足できる水準である」(50.6%)、「普通(どちらともいえない)」(34.9%)、「日本人よりも質が高い、もしくは十分満足できる水準である」(12.0%)となっている。
	介護 4-(1)-② 利用者への質問	●利用者に対して、候補者が提供する介護サービスの質の水準を尋ねたところ、「概ね満足できる水準である」(59.2%)、「普通(どちらともいえない)」(31.1%)、「日本人よりも質が高い、もしくは十分満足できる水準である」(12.6%)となっている。

看護師候補者

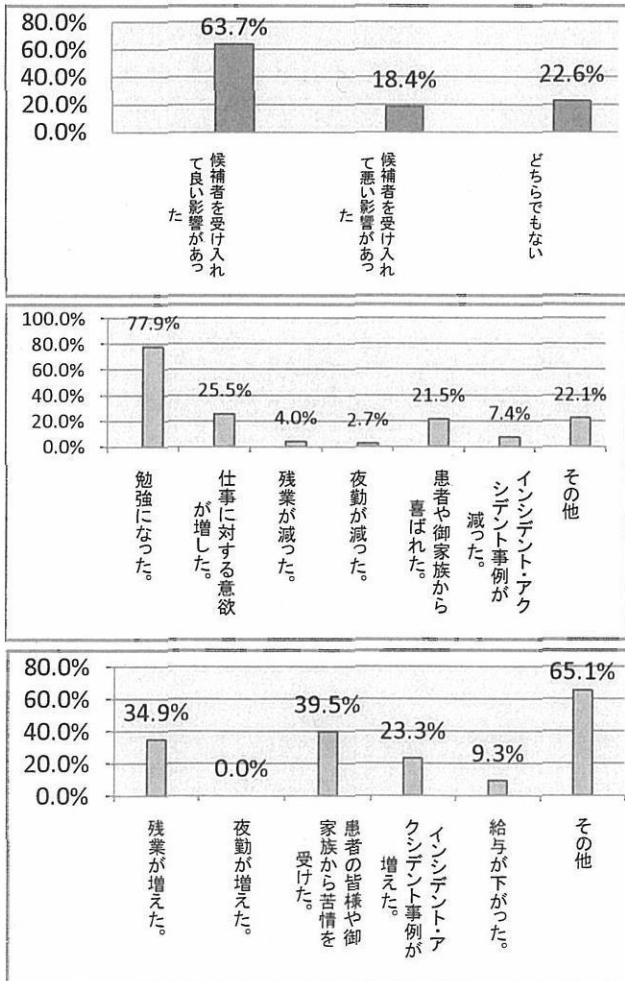


介護福祉士候補者

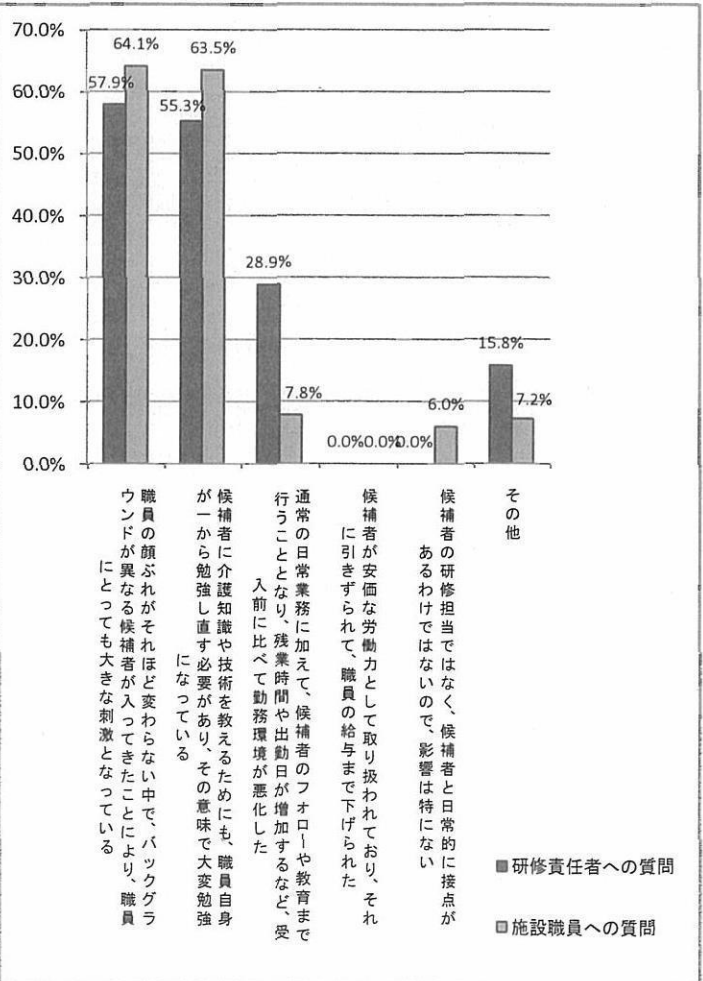


項目	各実態調査の公表資料の「結果概要」の該当箇所	内容
7 候補者受入による職員や仕事等への影響	看護 4-(2) 職員への質問	○職員に対して、候補者を受入れたことにより職員や仕事にどのような影響があったかを尋ねたところ、「候補者を受け入れて良い影響があった」(63.7%)、「候補者を受け入れて悪い影響があった」(18.4%)となっている。 「候補者を受け入れて良い影響があった」と回答したうち、「勉強になった」(77.9%)、「仕事に対する意欲が増した」(25.5%)、「患者や御家族から喜ばれた」(21.5%)などとなっている。 また、「候補者を受け入れて悪い影響があった」と回答したうち、「患者の皆様や御家族から苦情を受けた」(39.5%)、「残業が増えた」(34.9%)、「インシデント・アクシデント事例が増えた」(23.3%)、「給与が下がった」(9.3%)などとなっている。(複数回答可)
	介護 4-(3)-① 研修責任者への質問 施設職員への質問	●研修責任者、施設職員に対して、候補者を受け入れたことによる職員への影響を尋ねたところ、「職員の顔ぶれがそれほど変わらない中で、バックグラウンドが異なる候補者が入ってきたことにより、職員にとっても大きな刺激となっている」が各々、57.9%、64.1%、「候補者に介護知識や技術を教えるためにも、職員自身が一から勉強し直す必要があり、その意味で大変勉強になっている」が各々、55.3%、63.5%、「通常の日常業務に加えて、候補者のフォローや教育まで行うこととなり、残業時間や出勤日が増加するなど、受入前に比べて勤務環境が悪化した」が各々、28.9%、7.8%となっている。(複数回答可)

看護師候補者

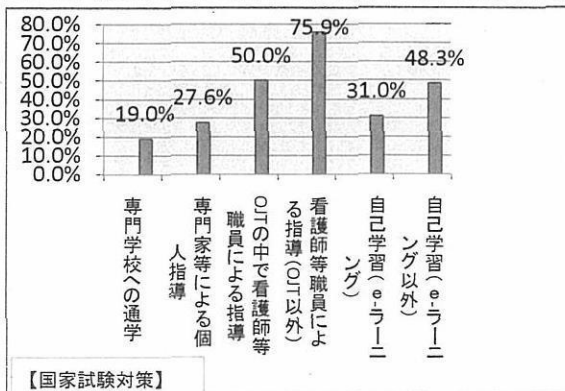
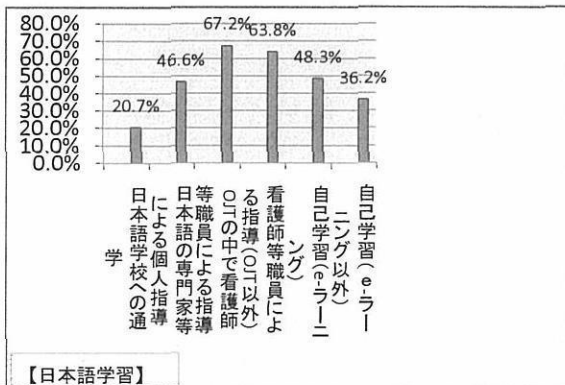


介護福祉士候補者

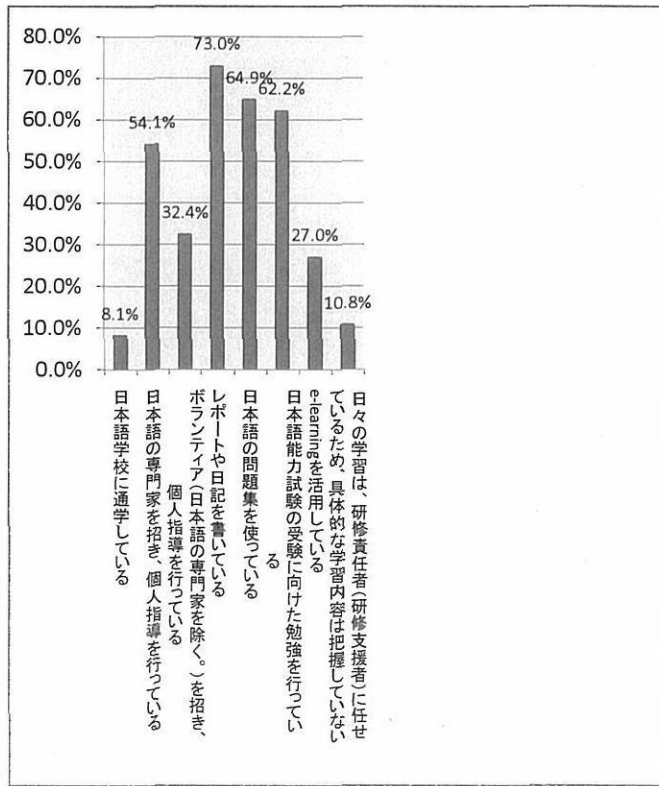


項目	各実態調査の公表資料の「結果概要」の該当箇所	内容
8 候補者の学習方法	看護 3-(4)-① 研修責任者への質問	○研修責任者に対して、①候補者はどのような日本語学習を行っているか尋ねたところ、「OJTの中で看護師等職員による指導」(67.2%)「看護師等職員による指導(OJT以外)」(63.8%)、「自己学習(e-ラーニング)」(48.3%)、「専門家等による個人指導」(46.6%)、「自己学習(e-ラーニング以外)」(36.2%)、「専門学校への通学」(20.7%)となっている。 ②候補者は、どのような方法で国家試験対策の学習を行っているか尋ねたところ、「看護師等職員による指導(OJT以外)」(75.9%)「OJTの中で看護師等職員による指導」(50.0%)、「自己学習(e-ラーニング以外)」(48.3%)、「自己学習(e-ラーニング)」(31.0%)、「専門家等による個人指導」(27.6%)、「専門学校への通学」(19.0%)となっている。(複数回答可)
	介護 5-(1) 施設長・理事長への質問	●施設長・理事長に対して、候補者にどのような日本語学習を行わせているか尋ねたところ、「レポートや日記を書いている」(73.0%)、「日本語の問題集を使っている」(64.9%)、「日本語能力試験の受験に向けた勉強を行っている」(62.2%)、「日本語の専門家を招き、個人指導を行っている」(54.1%)、「ボランティア(日本語の専門家を除く。)を招き、個人指導を行っている」(32.4%)、「e-ラーニングを活用している」(27.0%)、などとなっている。(複数回答可)

看護師候補者

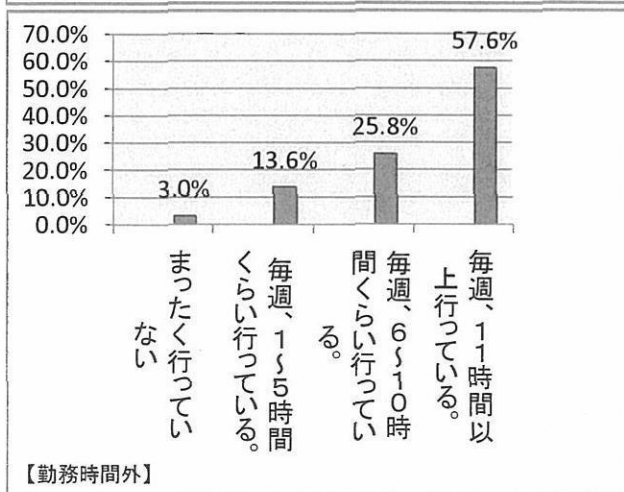
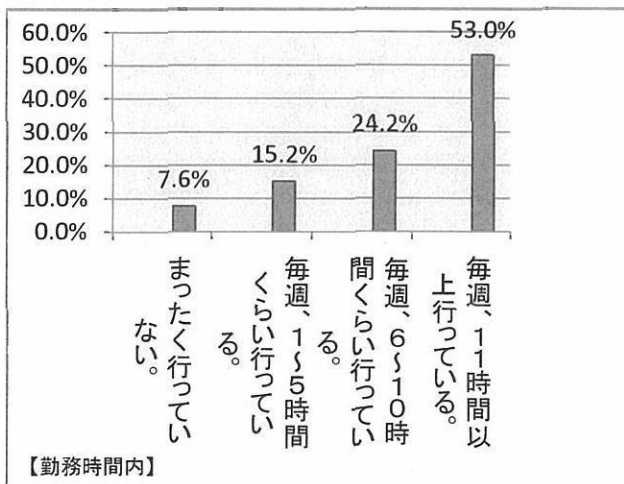


介護福祉士候補者



項目	各実態調査の公表資料の「結果概要」の該当箇所	内容
9 候補者の学習時間	看護 3-(4)-②-イ 候補者への質問	○候補者に対して、①勤務時間内に日本語や国家試験の勉強をどのくらい行っているか尋ねたところ、「毎週、11時間以上行っている」(53.0%)、「毎週、6～10時間くらい行っている」(24.2%)、「毎週、1～5時間くらい行っている」(15.2%)、「まったく行っていない」(7.6%)となっている。 ②勤務時間以外に、日本語や国家試験の勉強をどのくらい行っているか尋ねたところ、「毎週、11時間以上行っている」(57.6%)、「毎週、6～10時間くらい行っている」(25.8%)、「毎週、1～5時間くらい行っている」(13.6%)、「まったく行っていない」(3.0%)となっている。
	介護 5-(2) 候補者への質問	●候補者に対して、週当たりの日本語の学習時間について尋ねたところ、「毎週、1～5時間くらい行っている」(47.9%)、「毎週、6～10時間くらい行っている」(39.7%)、「毎週、11時間以上行っている」(12.3%)、「まったく行っていない」(2.7%)となっている。

看護師候補者



介護福祉士候補者

